

NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 2 LESSON 1 授業例②

K.Y. 先生

指導計画表

(全8時間)

時間	学習内容・主な活動
1	■ハワイの伝統文化について知る。 ■GET ・文法の導入 ・語句・表現の導入
2	■GET ・過去形を理解し、使う。(復習) ・コミュニケーション活動
3	■GET ・本文の導入・理解
4	■GET ・本文の復習 ■USE Read ・本文の導入・理解
5	■USE Read まとめ ・本文の理解
6	■USE Write ・春休みの出来ごとについて絵日記を書く。
7	■USE Write ・春休みの出来ごとについて絵日記を書く。
8	■We're Talking ・道案内をしよう。

実践例

1. 単元のねらい

この単元でねらったことは3つありました。1つ目は、ハワイの伝統文化について知ること。2つ目は過去形を理解し、使うこと。3つ目は春休みのできごとについて絵日記を書くことでした。

この単元で特に力を入れたことは、春休みのできごとについて絵日記を書く活動でした。

以下、実践した授業の流れです。

2. GET～USE Read の授業展開

※=気をつけたこと等 ◎=生徒の反応

1■ハワイの伝統文化について

①導入として、ALT とハワイ在住の ALT の妹に実際にフラダンスを踊ってもらい、ハワイの基本的な情報や伝統的な文化・食べ物等のプレゼンテーションを用いて導入した。

◎生徒は彼らが食べている料理や実際に目の前で見るフラダンス、その一つ一つに驚いていた。ALT の妹がフラダンスの先生であり、一つ一つのフラの行動の意味を教えてもらいながら一緒に踊った。踊る時に、生徒はその行動の意味を想像しながら踊っていた。生徒はハワイの伝統や文化にとっても興味関心を示していた。

■GET 文法の導入

②ALT に「春休みの思い出」として、ハワイに妹を訪ねて行ったことについてパワーポイントを用いて、話してもらった。

※その際、文中の過去形の色を変え、動詞がどのように変化したのか注目させた。

導入

例)

○What did you do during the spring vacation?

●I went to Hawaii. I visited my sister there.

③ALT の話が終わった後、Where did he go during the spring vacation?などの内容確認のための質問をなげかけ、全体で内容を確認した。

◎ALT の話を音声だけで理解するより、画像や文字をヒントに内容を理解することができた箇所があった、との感想があった。

④次に、私の春休みの思い出についても話した。スピーチ後も同様に、今度は ALT に Where did she go during the spring vacation?などの内容確認のための質問をなげかけ、全体で内容を確認した。

※私達の春休みの発表をすることで生徒に単元のゴール（トピックイメージ）を持たせることができた。

◎生徒は ALT や教師の発表にとっても興味・関心を示していた。授業の最後には「地球にこんなところがあるんだね。」と言っており、刺激を受けていたようであった。

◎また、プレゼンテーションの内容理解では、生徒はなんとなく「今 ALT は過去の話をしているんだろうな。過去形はこのように使うんだな。」という感覚を感じ取っていた。

⑤スピーチの中で使われていた文を過去形に注意しながら、ALT の後についてゆっくり音読する。不規則動詞やうまく発音できない動詞については、はっきり発音できるまで繰り返し全体で練習する。そのあと、音読の速度を変えてもう一度音読する。

◎規則動詞の過去形はすんなり導入できたが、不規則動詞の変化にとまどっていた。つまりいた単語を何度も全体練習することでつまずきを解消することができた。

⑥『英語の基本文型』（三省堂）を用いて、過去形の文を全員で音読する。

※『英語の基本文型』（三省堂）を用いて、過去形を反復練習する。

⑦黒板に過去形のまとめを書く。

◎過去形の文の作り方はすぐにマスターできた。過去形の動詞の発音もこの段階で発音することができていたが、書くことにおいては（特に不規則動詞が）難しいようであった。そのため、宿題として過去形のワークシートを用意した。

2■GET コミュニケーション活動

①復習として、いままで教科書にでてきた過去形の動詞をすべて表にして（規則動詞と不規則動詞にわけたもの）黒板に貼り全体で音読する。

②何度か全体で指導した後、個人指名し、きちんと発音できているか確認した。その後また全体練習にもどした。

※個人指名する際、英語があまり得意でない生徒を指名するようにし、彼らが発音できるようになったら次の活動に進むようにした。

③生徒がたくさん過去形を使えるような活動を行った。

④授業の最後に、文法プリントを解いた。（授業中にできなければ宿題とした。）

※スローラーナーにはプリント全部ではなく、目標を決めて解かせるようにした。

◎多くの生徒が、過去形の不規則動詞が書けるようになっていた。

⑤宿題は次の時間、「過去形」（『英語の基本文型』（三省堂）のp.4）の小テストをすると予告し、その小テストの勉強とした。

※書くことの定着を図るため、授業と宿題がなるべく連動するように仕組んだ。

3■GET 本文の導入・理解

①「過去形」（『英語の基本文型』（三省堂）のp.4）の小テストを実施した。

②教科書 p.7 のリスニングをした。

③新出単語の意味を全体で確認し、音読する。音読は全体→個人→全体で行った。

④本文読解のプリントを解いた。

1. いつの休みの話でしょう？
2. ポールはどこに行きましたか？
3. 誰を訪れましたか？

:

:

5. What did Paul buy in Hawaii?

※スモールステップの問題を設定し、「読める」という達成感をもたせた。

◎英語が苦手な生徒も英問英答以外はほとんど解答していた。

◎導入でALTの妹さんがフラのことについて説明してくれていたため、本文の内容を理解しやすかったとの感想があった。

⑤教科書の本文の内容理解ができたら、左に英文、右に日本語訳が書いてあるプリントを配布し、全体で本文の音読をした。

プリント

例)

Kumi: What did you do during the spring vacation? あなたは春休みに何をしましたか。

Paul: I went to Hawaii. 私はハワイに行きました。

:

:

Paul: Yes, I did. はい、楽しい時間を過ごしました。

And I bought this aloha shirt! そしてこのアロハシャツを買いました。

音読

- ・教師の後についてリピートする
- ・ペアになり、役割を決めて音読する
- ・役割を変えて音読する
- ・ペアを変えて音読する など

※教え合い学習ができるようにこちらで意図的にペアを組んでいる。この時も、ペアで発音を教え合いながら音読をしていた。

⑥その後、個人（やペア）で覚えるまで音読する。暗唱できた生徒から教師のところに発表に来る。

⑦終わった生徒は暗写の練習をする。

⑧次の授業で暗写のテストを行うことを予告し、宿題はそのテスト勉強とした。

※ここでも授業と家庭学習との連動を図るようにした。

4■USE Read 本文の導入・理解

①前時の復習

前時で学習した本文の暗写のテストを行った。

②新出単語の意味を全体で確認し、音読する。音読は全体→個人→全体で行った。

③本文読解のプリントを解いた。

※ここでは日記を上手に書くためのポイントである感想などが本文に含まれていることに気づけなかった為、感想が書かれている部分をぬくような質問をいれておいた。

例)

1. いつ書かれた日記ですか？
2. 数名の人はビーチで何をしていましたか？
- :
- :
5. them は誰を指しているでしょう。
6. ダンスと一緒に踊った時、どのようなことを感じたでしょう。
7. What did some people do on the beach?
8. What do some hula dances tell?

5■USE Read 本文の理解

①前時の残りの質問を解いた。

②全体で答え合わせをした。

③英問英答の問題は、解答時に some people や some hula dances を文の中で正しくとらえられなかったので、主語・動詞カードを用いて文構造をわかりやすく提示したり、some people や some hula dances をうまく代名詞に変えることができていなかったため、代名詞の復習をしたりと丁寧に時間をかけて説明した。

③本文の音読をした。

④Use Write の 1 と 2 を解く。

個人思考→ペア→全体

※問題を解く際、タイマーを使って時間を意識させた。

6■USE Read

春休みの出来ごとについて絵日記を書く。

①単元の始めに生徒に見せた ALT と教師のモデルを提示するとともに評価も提示した。

評価

- ・ 過去形を用いて 6 文以上 A
- ・ 過去形を用いて 4 文以上 B

:

②ワークシートに「春休みの思い出」について日本語で考え書いていった。

※考える時間、書く活動、両方時間を設定した。

③英語に直す。

※分からない単語は辞書で調べさせた。

※スローラーナーにはわからない単語等の支援に入った。

7■USE Read

①生徒は教員や ALT がチェックしたプリントをもらい、英文を直す。

②直し終わった生徒はマジックで消す。

③それが終わった生徒はペアのサポートに入る。

④スローラーナーは簡単な英文で 6 文以上達成しており、英語が得意な生徒は過去形の文＋今までの文法を使って英文を書いていた。

④きれいな英文を書いている生徒や、文章のおもしろかった生徒が「春休みの思い出」を発表し、聞いている生徒がその感想(コメント)を発表した。これらの実践を振り返り、書かせるまでのインプットの質と量の重要性を感じた。そして書かせる際には、こちらから与え過ぎると生徒の思考力や発想力が十分でなくなり、与えるものが少ないとスローラーナーにとってはすごく難しく感じてしまう活動だということを痛感した。こちらがどこまで生徒に提示するかということが難しいと感じた。

生徒の発表の際に、生徒はとても興味深そうに聞いていた。そして「このような文を英語であのように表現するのか。」と、全体での学びの場となった。「教師から生徒へ」よりも「生徒から生徒へ」のほうが生徒の学びが多かったように感じた。

3. We're Talking の授業展開

ここでねらったことは2つあり、1つ目は、交通手段をたずねたり、説明したりすること。2つ目は“How can I get to~?”を理解し、使うことでした。

ここで特に力を入れたことは、交通手段をたずねたり、説明したりすることでした。

以下、実践した授業の流れです。

<授業>

※=気をつけたこと等 ◎=生徒の反応

8■We're Talking 1

①導入として、パワーポイントを用いて、生徒の住んでる地域でALTが迷っている場面を設定し、会話をスタートさせた。

※ALTが“How can I get to~?”のセリフを言った直後にわざと“Pardon?”とALTに聞き返し、“How can I get to~?”を強調した。

②同様にして「Take~」「Get off~」もおさえた。

◎生徒はこの時点でこれらの英文の意味を把握していた。

③使用したプレゼンをALTの後について音読し、何度も練習した。

④地域の地図を利用し、コミュニケーション活動を行った。

※題材を生徒の身近なものに少し近づけた。

◎自分の地域の地図であったことから、情報を付け加えたりするなどして積極的に参加していた。

⑤新出単語の導入

新出単語の意味を全体で確認し、音読した。

音読は全体→個人→全体で行った。

⑥左に英文、右に日本語訳が書いてあるプリントを配布し、本文の音読をした。

例)

Ken: Wakarimasuka? わかりますか。

Women: Do you speak English? 英語が話せますか?

:

:

Women: Kitamachi Station. 北町駅ですね。

I see. わかりました。

Thank you. ありがとう。

⑦オリジナルスキットを作成する前に、評価規準を提示した。

⑧オリジナルスキットをペアで考えさせる。

⑨ペアで練習し、暗唱させる。

◎あるペアは二人で考えた英文を音読し、その際ペアの生徒がつまずいた英単語の上にカタカナをふるなどしていた。

⑩覚えたスキットをALTに発表する。

◎生徒は発表しながら、自分たちの街を想像しながら、楽しみながら発表していた。

⑪おもしろいスキットを考えた生徒に全体発表してもらった。

4. 振り返って

- ・全体的に、楽しく授業ができたので良かったと思う。生徒達も笑顔で活発に授業に取り組んでいた。
- ・「聞く」・「話す」・「読む」の分野はだいぶ定着しているが、「書く」分野が不十分な生徒もいるので、地道に繰り返し練習させ、力を付けていきたい。